看取り後の介護者の就労を考える

～心のケアと学びのある居場所づくり～

介護者さろんてぃぽっと　代表　鈴木陽子

アラジンとの出会いと会の立ち上げ

父が入所している施設の相談員に勧められた講演でアラジンの理事長の牧野さんと出会い、介護をしている娘の会（娘サロン）に参加。

その会で、介護が始まったばかりのお困り事でいっぱいいっぱいのケアラーがやってしまう「噴き出すほどに長時間話す」をしてしまう。

これを機に、冷静に少し先をみつめられるようになった。そして、地域の家族会にも参加するが、老老介護の方々に「若いんだから頑張れ」と励まされ、愚痴をこぼせず不完全燃焼。

アラジンの娘の会に行くには遠く、「だったら自分で作れば」との牧野さん中島さんの後押しで、2011年1月てぃぽっとを立ち上げた。

てぃぽっとの紹介

対象者：親などのケアを概ね一人でしている、娘息子、甥姪、孫等

開催日：偶数月第三土曜日の午後に定例さろんを開催

会　場：レストランの個室、公共施設、コミュニティカフェ

会　費：都度会費で実費精算

情報発信：ニュースは作成せず、メールとSNSの情報発信

人　数：大抵5−6人。リピーターが一多く、CM紹介とチラシによるが数名。

年齢層：今は40～50代。働きながらの介護者は1/3。

- フル就労は私と数人。介護福祉職の方もおり、介護現場ゆえの介護者への同僚の共感を得られない事が多い。
- さろんを続けるためこの5年力を入れたのは、介護者目線のその時に一番知りたい事を学ぶ講座を年2～3回行う事で、講師はよくお引き受けいただけたと思う方ばかり。
- 大きな講演は２回程（５０名、１００名ともに定員オーバーの集客）他の家族会と合同行う。

本日のテーマは
「看取り後の介護者の就労を考える
～心のケアと学びのある居場所づくり～　」

てぃぽっとにおける、看取りの方の例をお話します。
ご本人からこの場のみの話であればと了承得ておりますので、
聞き流して頂きたく宜しくお願い致します。

介護の看取り後は
今まで関わってくれていた医療、介護の支援者が
一気に手を離されて、最も精神的にきつい時期を
特にシングルの方は1人でしていかなければならない。

ここを乗り越えるためには
家族会等で、振り返りをしつつ
自立への道を探っていくのがいいのかと考えます。

MANABIYAカフェ
の役割期待

MANABIAYカフェは、

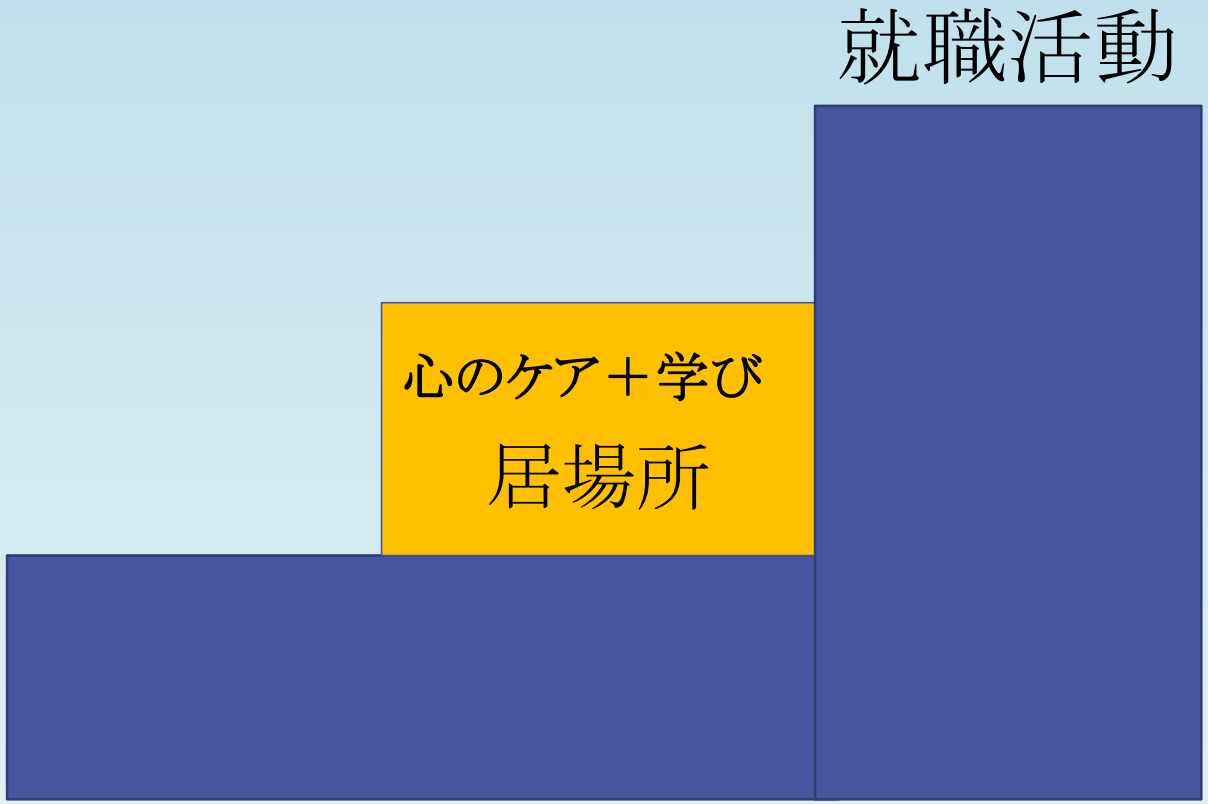
自立をしようとした際に、

1. 就労への後押しをするための支援がある、
2. 長年の介護生活により就労したとしても社会性がないままの状況で
   困り事が出てきた際に訪れることができる、

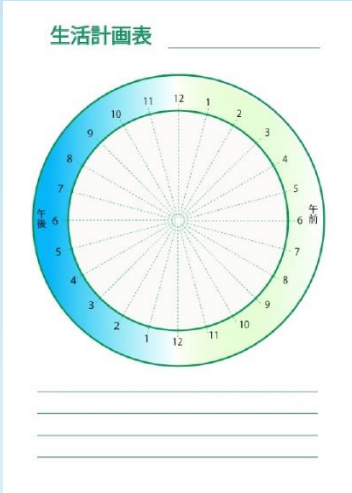
居場所として・・・

MANABIYAカフェの役割期待

就職活動をする前のスモールステップとして



ケースワーク



グループワーク

MANABIYAカフェの役割期待

はたらくためのステップ

- 働く意欲
- どんな働き方をしたいか
- そのための情報はどこで得るか
- 働く前に資格を取る
- 生活を整える

MANABIYAカフェの役割期待

本日、一緒に考えてほしいこと

- スモールステップの居場所として
- 就労につなげるために必要な機能や人は
- 後押しをするための支援とは
- 介護者（又は看取り後）に必要なケアは